

理工学部新入学生対象スタートアップセミナーの実施

米満 潔*1・河道 威*1・田中 正和*1・穂屋下 茂*2
Email: yonemik@cc.saga-u.ac.jp

*1: 佐賀大学 e ラーニングスタジオ
*2: 佐賀大学全学教育機構

◎Key Words キャリア教育, アクティブラーニング, 初年次教育

1. はじめに

ここ数年、大学に入学してきた時に、これからの大学生活をどのように過ごすのか、大学卒業後にどのような仕事をしたいのか、そのためには何をしなければならぬかなどキャリアデザインについて、ほとんど考えることもないまま無為に大学生活を終えている学生が目立ってきている。

そこで筆者らは、2013年4月に、佐賀大学理工学部の新入学生に対して「スタートアップセミナー」を実施することとした。このセミナーの目的は、学生にとって学びの質の変換とキャリアデザインのために必要なクリティカルシンキング（批判的思考）とロジカルライティング（論理的文書作成）の能力を身につけることである。

このセミナーは、今回は大学の正規科目ではなく、佐賀大学理工学部同窓会の主催による課外授業として実施することとした。セミナーの対象者は、2013年4月に理工学部に入学者のうち、このセミナー受講を希望した学生とした。セミナーの定員は40名とし、これを超える場合は抽選で選抜することとした。本稿では、この「スタートアップセミナー」の実施について報告する。

2. セミナー実施まで

2.1 実施の背景

無為に大学生活を終えている原因として、大学に入学者、高校までの「従属的な学び」から大学での「主体的な学び」への学びの質の変換がうまくできないことがあげられる。高校での授業のように教員が教えることを従属的に受けとるような形態の授業は大学では多くない。そのため、大学で学ぶ学生には主体的に学ぶ姿勢が必要となる。また、大学に入ることが目的であったり、偏差値で学部学科を選択したりした学生は、卒業後の就職や進学などの目的を視野に入れたキャリアデザインもできていない。

2.2 実施要綱の決定

まず、理工学部同窓会で実施要綱を検討した。入学直後の早い時期に実施したいので、4月中の土日に集中して実施することとした。この開講日設定のため、大学の正規科目ではなく、佐賀大学理工学部同窓会の主催による課外授業として実施することとした。

次に、講師について検討した。セミナーの開講時期

や内容では、学内の教員での実施では困難と考え、このセミナーの趣旨にあったテキストを有する学外の企業に依頼した。このセミナーの実施概要を表1に示す。

2.3 受講者募集

前節で決定した実施要綱をもとに募集案内(図1)を作成し、同窓会から発送する書類に同封して理工学部の合格者約500名に発送し、入学手続き書類とともに提出してもらうようにした。

その結果、理工学部の新入学生から27名の受講希望の応募があった。これらの学生に対しセミナーの趣旨や内容について詳細に話す説明会を実施した。最終的な受講者は6名であった。

3. セミナー実施

セミナーのスケジュールを表2に示す。1日目の午前中は受講者同士だけでなくセミナーに協力している在学生や同窓会役員とのコミュニケーションをとっていくための準備にあてた。1日目の午後から4日目午前まではテキストに沿った内容でセミナーを行った。

表1 実施概要

主催	佐賀大学理工学部同窓会
対象	理工学部新入生(40名)
講師	ベネッセコーポレーションより派遣
受講料	無料(別途教科書代1,800円が必要)
期間	[前半]平成25年4月13日(土),14日(日)
	[後半]平成25年4月27日(土),28日(日)
時間	合計30時間(7.5時間×4日)



図1 スタートアップセミナー募集案内

1日目の午後の講義に入る前に、受講者を2グループに分けた。これは少人数のグループで活動することでグループ討議やグループ発表の実習の際に全員が何らかの役割に参加できるようにするためである。図2にセミナーの様子を示す。

4日目は与えられたテーマについてチームでクリティカルシンキングの手法で議論し、最後にロジカルライティングの手法でプレゼンテーションを行った。このプレゼンテーション終了後、セミナーの修了式を行い受講生に修了証を授与した。

今回、受講者に与えたテーマは、佐賀市の依頼を受けて、本学の「デジタル表現技術者養成プログラム」⁽¹⁾を修了した理工学部在籍生が中心となり、市民と協力を得て制作した市民映画⁽²⁾を題材として「佐賀市中心部の活性化」とした。

表2 スケジュール

前半	4月 13日 (土)	1 日目	午前 ●開講式 ●アイスブレイク(自己紹介、ゲーム)
		午後	●先輩の話(経験談・質疑応答) ●クリティカルシンキング(1) 議論の明確化
後半	4月 14日 (日)	2 日目	午前 ●クリティカルシンキング(2) 隠れた前提と根拠の確かさ
		午後	●クリティカルシンキング(3) まとめ ●グループ活動テーマ発表
後半	4月 27日 (土)	3 日目	午前 ●ロジカルライティング(1) 主張・意見・根拠 ●グループ活動 ●中間プレゼンテーション
		午後	●ロジカルライティング(2) 整理・文章化 ●グループ活動
後半	4月 28日 (日)	4 日目	午前 ●ロジカルライティング(3) まとめ ●グループ活動
		午後	●グループ活動 ●最終プレゼンテーション ●セミナー総括 ●修了証授与



図2 セミナー風景

なお、このテーマは2日目終了時に提示され、後半開始日までの2週間の間にチームで調査や議論等の活動を行うよう指示された。受講生は、何度か自主的に集まって活動したようで、4日目にはプレゼンテーションのための資料を準備してきていた。また、4日目は昼食をとるのも忘れて議論や資料作成を行うなど積極的に活動していた。

さらに、このセミナーの様子は、2台のビデオカメラで撮影した。撮影した映像は記録として保存するとともに、編集して2種類のDVDを作成した。ひとつは、将来佐賀大学の初年次教育科目の一部として、このセミナーと同様の内容を実施する場合に参考とするためのもので、もうひとつは理工学部の教職員や来年度以降の新入生に実施概要を説明するためのものである。

4. 考察

1日目の受講生は、初対面の人ばかりで緊張していたせいかほとんど自分から話しかけることはなく、話しても長く続かない状態であった。しかし、懇親会や先輩との話を通して親密になるにつれ、セミナーでの議論だけでなく休憩時間での会話も含め、受講生同士のコミュニケーションも活発になっていった。

4日目のプレゼンテーション終了後、受講生に対してこのセミナーについてのアンケートを実施した。セミナー受講前後の個人の変化についての設問には「高校までの学び方と大学での学び方の違いが少しでもイメージできた」、「学ぶ必要性を感じた」とほとんどの学生が回答した。また、セミナーの満足度もすべての学生が「満足」と回答した。さらに、来年度の受講生へのメッセージとして受講を勧める内容のものが多かったことから、今回実施したセミナーの内容や実施形態については、受講生にとって有益であったと思われる。

ただし、課題として受講人数が少なかったことがあげられる。来年度に向けて、どのようにして受講者数を増やすか、また受講者数が増えてもこの満足度を維持するためにはどうするかを、検討する必要がある。

5. まとめ

今回実施したセミナーにより受講生はクリティカルシンキングとロジカルライティングの能力を身につけることができたと思われる。来年度以降に向けて今回のセミナーの受講者には、卒業まで定期的に単位取得の状況や意見を聞くとともに、セミナーへの協力依頼などを行う予定である。

6. 謝辞

本セミナーの実施において佐賀大学理工学部同窓会および株式会社ベネッセコーポレーション大学事業部大阪支社佐藤昭夫様と講師の澤田和美様にご協力をいただきました。心より感謝いたします。

参考文献

- (1) 佐賀大学デジタル表現技術者養成プログラム：
<http://net.pd.saga-u.ac.jp/digi-pre/> (2013/06/07 参照)。
- (2) ライウマ：市民映画制作プログラム オープンシネマコンソーシアム、<http://raiuma.mond.jp/> (2013/06/07 参照)。